

平成25年度
乙訓圏域障がい者自立支援協議会報告書

平成26年5月
乙訓圏域障がい者自立支援協議会

目 次

1 運営報告	1 ~ 11ページ
2 「医療的ケア」委員会報告	12 ~ 15ページ
3 地域生活支援部会報告	16 ~ 19ページ
4 発達障がい児・者支援部会報告	20 ~ 21ページ
5 相談支援部会報告	22 ~ 25ページ
6 各プロジェクト報告	
ヘルパー養成・研修プロジェクト報告	26 ~ 27ページ
雇用支援プロジェクト報告	28 ~ 30ページ
喀痰吸引等研修プロジェクト報告	31 ~ 32ページ
精神障がい者地域生活支援プロジェクト報告	33 ~ 34ページ

運営報告（案）

1はじめに

障がい者的人権及び基本的自由の享有を確保し、障がい者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的として、障がい者の権利の実現のための措置等について定める国連の条約「障害者の権利に関する条約」が昨年12月に国会で可決され、今年2月19日から効力を生ずることになりました。日本政府は平成19年にこの条約に署名をし、一昨年に障害者総合支援法を、昨年6月には障害者差別解消法を成立させるなど、批准に向けた国内法令を整備してきました。

この条約は、平成18年に国連で採択されました。「障がい者に関することを障がい者抜きに決めない」という姿勢で、世界各国の障がいのある当事者らが議論し、誰もがもつ人権と基本的自由が障がいのある人には保障できていない現実を解消し格差を埋めるため「合理的配慮」を障がい者に提供しなければ差別になることを明記しています。

乙訓圏域では、福祉や医療などの生活に必要なサービス基盤や環境が共有されている地域の特性などから、平成19年度に、乙訓地域で生活する障がい者（児）及び難病等患者（以下、「障がい者等」という）の自立と社会参加を支援するため、障がい福祉サービスの基盤整備と利用に関する総合調整を行う協議会を2市1町による共同設置され、乙訓圏域での障がい者支援の基本ネットワークとして定着してきています。協議会に関わる関係機関や関係者皆さまのご努力と協力のたまものであることを認識しその成果を大事に引き継ぎながら、これからは障がい者等ご本人の意思を大切にしたサービス等利用計画の普及や生活介護事業等新たなサービス基盤の確保をはじめとする多くの課題についての意見・情報交流と具体的な解決方向の提案を目指さなければなりません。

部会委員より協議会の運営に関し、年度の初めに活動方針と具体的活動内容を明確にし、適切な部会運営で課題解決を目指してほしいという要望が寄せられました。各部会は、部会長が協議全体を進め、運営委員でもある副部会長が協議課題の経過や現状などを説明し、今後の方針性などについて委員と協議してまいりました。それぞれの部会でご努力いただいて円滑な部会運営を行っていますが、委員から出された意見を尊重し、次年度以降はより明快な部会運営を目指します。

2組織体制

（1）運営委員会の開催

運営委員会は2市1町の障がい福祉担当課、乙訓保健所福祉室と相談支援の委託を受けた9事業所が定例会を開催し、自立支援協議会で協議すべき課題の整理と支援策の検討、部会の進め方などについて協議しています。平成25年度は年間15回開催

しました。

(2) 全体会・部会・プロジェクトの設置

全体会では、前年度事業のまとめの報告について確認し、引き続き当年度の取り組みについて協議・確認しています。

平成25年度の会議は、全体会1回、専門の委員会・部会を延べ27回、専門部会の中での打合せ29回、プロジェクト26回、説明会、研修会、シンポジウム、講演会を多数開催しました。

平成25年度は、1委員会（「医療的ケア」委員会）・3部会（地域生活支援、発達障がい児・者支援、相談支援の各部会）を設置しました。各部会等の協議の到達点と成果、今後の課題についてはそれぞれの報告のなかで後述しますが、平成24年度の各部会での課題の分析や解決策の協議経過を踏まえ、あらためて各部会の課題として具体的な協議を行いました。個別の調整会議や打合せ会議等で委員の意見を踏まえた修正作業を行い、不充分ながらも年間活動報告の成案を得るに至りました。ただ、自立支援協議会全体の活動を協議する運営委員会と専門部会との調整や専門部会の報告のあり方などに課題がありました。今後、運営要綱に則り、乙訓圏域障がい者自立支援協議会の目的である「障がい福祉サービスの基盤整備と利用に関する総合調整を行う」ために、協議していきます。

また、社会福祉法人あらぐさ福祉会との連携による「ホームヘルパー養成・研修プロジェクト」については介護職員初任者研修課程修了者9名を養成し、社会福祉法人乙訓福祉会との連携による「喀痰・吸引等研修プロジェクト」については第3号研修修了者45名を養成しました。しうがい者就業・生活支援センターアイリスとの連携による「雇用支援プロジェクト」については「障がい者ワークフェア in 乙訓」を開催し、精神障がい者の地域移行、退院支援をめざす「精神障がい者地域生活支援プロジェクト」では、西山病院での研修会を実施するなど、各プロジェクトについても協議会のネットワークとして具体的な活動と一定の成果を得るに至っています。

3 平成26年度の課題

平成25年度の委員会・部会、プロジェクト、各市町、相談支援事業所や関係団体の要望等々から出された課題は数多く、十分な協議ができず積み残した課題、運営委員会と部会との連携、新たに出てきた課題など、その内容を見極め、優先順位を付けながら運営委員会、部会等における協議を進めが必要です。

また、国連の条約「障害者の権利に関する条約」が主張する「障がい者に関することを障がい者抜きに決めない」の訴えを実現するための、障がい者等当事者の協議会の参加や障がい者等当事者の意見を部会等に取り入れるため、自立支援協議会のあり方の検討が求められています。また、「障害者総合支援法」の施行に基づく新たな施

策の展開や検討、全ての障がい者等へのサービス等利用計画の普及と相談支援員の質と数の確保、乙訓版相談支援システムの定着については、圏域の重要課題でもあり集中的な協議と具体化が急がれます。

4 情報の公開

乙訓圏域障がい者自立支援協議会の活動内容が、当事者や関係者をはじめ広く住民に理解され共感されることが必要で、会議内容や協議結果の情報が広く共有されることが今後のネットワーク活動の広がりにつながります。引き続き、各部会等の会議録の公開、可能な限り部会の傍聴を進めていく必要があります。

また、協議会の活動内容を当事者・家族や広く住民にアピールすることは重要で、周知啓発活動の実施及び障がい関係団体や事業所等の会議への参加なども検討します。

本協議会の情報公開については、ホームページの活用を基本に行ってています。

「乙訓福祉施設事務組合」のホームページから「乙訓圏域障がい者自立支援協議会」を開いてください。

なお、ホームページでは、平成19年度の協議会設置以降の経過、年度ごとの会議録等を掲載しており、また部会等報告以外にも様々な障がい福祉関連の研修会や情報を掲載していますのでご覧ください。

【別添資料】

資料1 障害者の権利に関する条約の締結

資料2 乙訓圏域障がい者自立支援協議会についての要望書

(乙訓手をつなぐ親の会)

資料3 来年度の精神障がい者プロジェクト会議のもち方についての要望

(乙訓やよい会)

平成25年度乙訓圏域障害者自立支援協議会の会議開催状況

1 全体会の開催

5月17日（金） 平成24年度乙訓圏域障害者自立支援協議会の事業報告
及び平成25年度乙訓圏域障害者自立支援協議会の事業計画

2 委員会・部会の開催

◎ 「医療的ケア」委員会（高畠・長谷川・山本）

定例会 7回
障がい福祉サービス等事業所における喀痰吸引等の実施の現状・課題・研修ニーズに関するアンケート調査 1回

◎ 地域生活支援部会（栗田・吉川）

専門部会 8回
山城北圏域施設見学会 1回
山城北圏域の安心コールセンターについての研修会 1回

◎ 発達障がい児・者支援部会（中川・村山）

専門部会 5回

◎ 相談支援部会（伊藤・榎並）

専門部会 7回
作業部会 3回
相談支援専門員（現任者）研修 2回

◎ ヘルパー養成・研修プロジェクト（奥田・あらぐさ福祉会）

プロジェクト会議 3回

◎ 雇用支援プロジェクト（松田・石松）

プロジェクト会議 9回
障がい者ワークフェア in 乙訓 1回

◎ 喀痰吸引等研修プロジェクト（西山・乙訓福祉会）

プロジェクト会議 5回
喀痰吸引等基本研修 2回

◎ 精神障がい者地域生活支援プロジェクト（中田・石田）

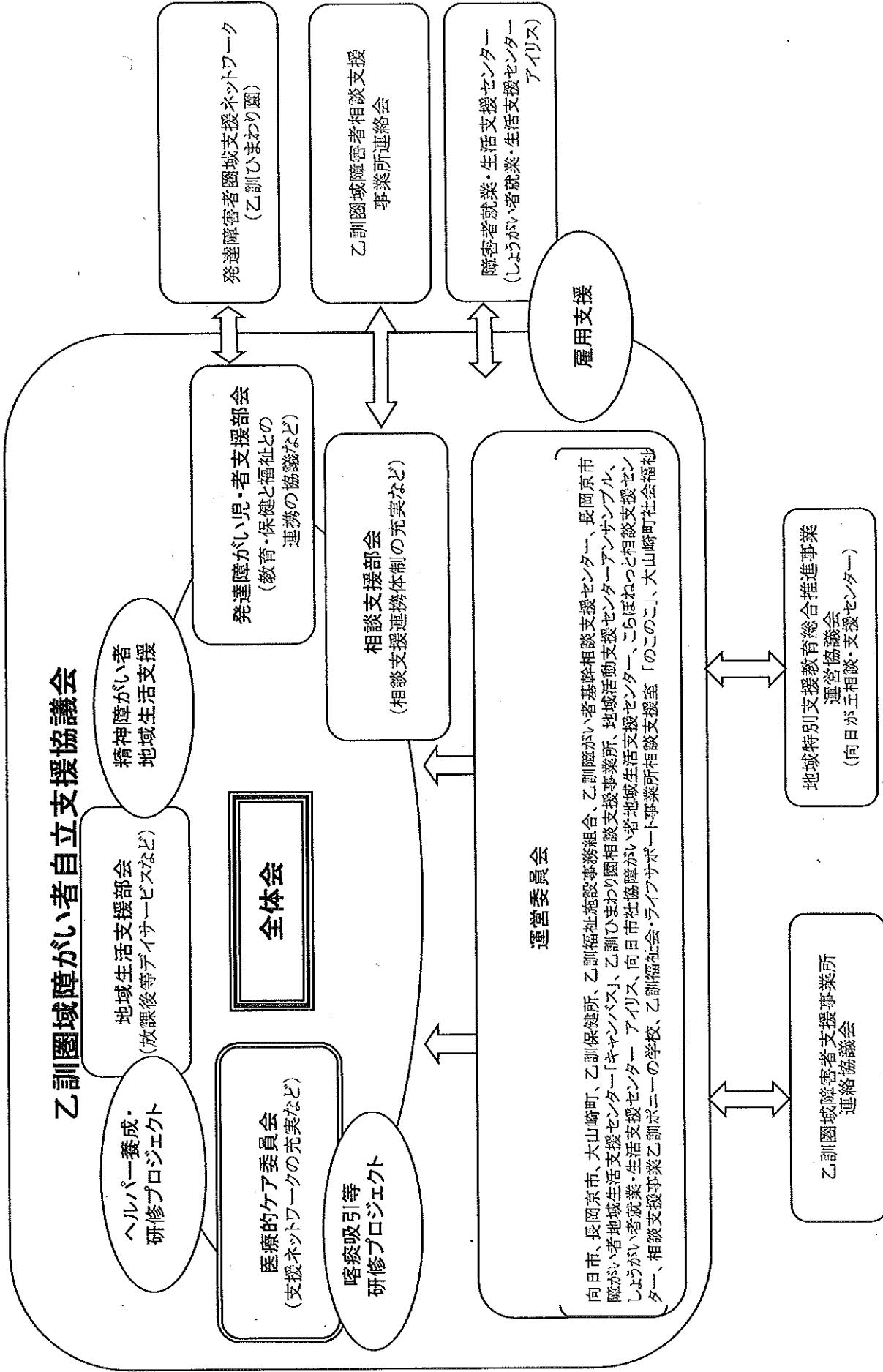
プロジェクト会議 8回

地域移行・地域支援に関する研修会 1回

3 運営委員会の開催 15回

- | | | |
|------|-------------|----------------------------------|
| 第1回 | 4月 8日 (月) | 全体会開催に向けた活動報告準備など |
| 第2回 | 4月 26日 (金) | 全体会開催に向けた準備など |
| 第3回 | 5月 7日 (火) | 全体会の開催準備、各部会等の確認など |
| 第4回 | 5月 23日 (木) | 各部会、プロジェクトの準備など |
| 第5回 | 6月 18日 (火) | 各部会、プロジェクト等の進捗状況など |
| 第6回 | 7月 16日 (火) | 各部会、プロジェクト等の進捗状況など |
| 第7回 | 8月 20日 (火) | 各部会、プロジェクト等の進捗状況など |
| 第8回 | 9月 17日 (火) | 各部会、プロジェクト等の進捗状況など |
| 第9回 | 10月 15日 (火) | 各部会、プロジェクト等の進捗状況など |
| 第10回 | 11月 19日 (火) | 各部会、プロジェクト等の進捗状況など |
| 第11回 | 12月 17日 (火) | 各部会、プロジェクト等の進捗状況など |
| 第12回 | 1月 21日 (火) | 各部会、プロジェクト等の進捗状況など |
| 第13回 | 2月 18日 (火) | 各部会、プロジェクト等の進捗状況など |
| 第14回 | 3月 10日 (月) | 各部会、プロジェクト等の進捗、まとめ、
次年度に向けてなど |
| 第15回 | 3月 18日 (火) | 各部会、プロジェクト等の進捗、まとめ、
次年度に向けてなど |

25年度乙訓園域障がい者自立支援協議会との機関連絡図



平成25年度乙訓園城障がい者自立支援協議会委員

平成25年度乙訓圏域障がい者自立支援協議会「医療的ケア」委員会

団体・機関名	所属名	役職	委員
乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	相談員	山本忠明
乙訓圏域障害者相談支援事業所連絡会	長岡京市障がい者地域生活支援センター 「キャンバス」	事業長	奥田英太郎
(福)乙訓福祉会	ライフサポート事業所	相談支援専門員	長谷川修
(福)乙訓福祉会	ライフサポート事業所	相談支援専門員	西山淑子
乙訓障害者支援事業所連絡協議会	NPO法人てくてく	事業統括本部長	尾瀬順次
乙訓障害者支援事業所連絡協議会	乙訓ひまわり園健康支援センター	センター長	亀井あや子
(社)乙訓医師会	(社)乙訓医師会	特定疾患・障害者担当理事	高畠龍一
京都府乙訓歯科医師会		監事	安藤純夫
(福)恩賜財団済生会京都府病院	福祉相談室	福祉相談室長	内藤雅子
乙訓訪問看護ステーション連絡会	訪問看護ステーション「ふれあい」	管理者	金森千絵子
京都府立向日が丘支援学校		副校長	小山佳正
京都重症心身障害児(者)を守る会			角本則子
乙訓の障害者福祉を進める連絡会			木村弘子
京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉室	副室長	野々口義也
京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	保健室	室長	竹原智美
向日市	健康福祉部障がい者支援課	主任保健師	藪内佐世子
長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主任保健師	清水和穂
大山崎町	健康福祉部福祉課	主幹	飯山一隆

乙訓圏域障がい者自立支援協議会事務局 乙訓福祉施設事務組合総合相談支援センター

〒617-0813 長岡京市井ノ内西ノ口17番地の8 TEL954-7939

平成25年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 地域生活支援部会

団体・機関名	所属名	役職	委員
(福)長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンバス」	事業長	奥田英太郎
(福)向陵会	乙訓ひまわり園地域生活支援センター	センター長	奥村美佳
(福)向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	相談支援専門員	吉川昭子
NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと京都自立支援センター	施設長	伊藤美恵
(福)乙訓福祉会	障害者地域生活活動センター 乙訓の里	センター長	坂本忍
(福)あらぐき福祉会		統括事業長	栗田紀江
NPO法人てくてく		統括管理者	森田元
乙訓福祉施設事務組合	乙訓若竹苑	施設長補佐	岡本友二
京都府立向日が丘支援学校		校長	山田定宏
(社)京家連 乙訓やよい会		幹事	西村くみ子
乙訓の障害者福祉を進める連絡会			安蒜小百合
乙訓の障害者福祉を進める連絡会			庵原由紀子
京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉室	室長	兒玉周司
向日市	健康福祉部障がい者支援課	主査	大牧茂雄
長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主査	樋口大輔
大山崎町	健康福祉部福祉課	主幹	飯山一隆

乙訓圏域障がい者自立支援協議会事務局 乙訓福祉施設事務組合総合相談支援センター

〒617-0813 長岡京市井ノ内西ノ口17番地の8 TEL954-7939

平成25年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 発達障がい児・者支援部会

団体・機関名	所属名	役職	委員
(福) 長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンバス」	事業長	奥田英太郎
(福) 向陵会	乙訓ひまわり園地域連携室	室長	村山史洋
NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと京都自立支援センター	施設長	伊藤美恵
乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	施設長	中川仁夫
(財) 長岡記念財団	しうがい者就業・生活支援センター アイリス	センター長	内田依子
京都府立向日が丘支援学校		教諭	後藤研也
京都府乙訓教育局	学校教育	指導主事	杉本里佳
乙訓の障害者福祉を進める連絡会			日野真喜
京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉室	室長	兒玉周司
京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	保健室	室長	竹原智美
向日市	健康福祉部障がい者支援課	主査	福田明日香
向日市	健康福祉部健康推進課	課長補佐	尾崎祥子
向日市	学校教育課指導係	指導主事	樋谷美幸
長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主事	伊藤瑞
長岡京市	健康推進課	保健師長	村田浩子
長岡京市	学校教育課	学校教育指導主事	宮脇好子
大山崎町	健康課	総括主幹	五十嵐聖子
大山崎町	福祉課社会福祉係	主事	内藤恵
大山崎町	教育委員会学校教育課学校教育係	指導主事	加納信行

乙訓圏域障がい者自立支援協議会事務局 乙訓福祉施設事務組合総合相談支援センター

〒617-0813 長岡京市井ノ内西ノ口17番地の8 TEL954-7939

平成25年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 相談支援部会

団体・機関名	所属名	役職	委員
乙訓福祉施設事務組合	乙訓障がい者基幹相談支援センター	相談員	山本忠明
(福) 長岡京市社会福祉協議会	長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンバス」	事業長	奥田英太郎
(財) 長岡記念財団	地域活動支援センターアンサンブル	施設長	石田早苗
(福) 向陵会	乙訓ひまわり園地域連携室	室長	村山史洋
(福) 向日市社会福祉協議会	向日市社協障がい者地域生活支援センター	相談支援専門員	吉川昭子
NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと京都自立支援センター	施設長	伊藤美恵
NPO法人こらぼねっと京都	こらぼねっと京都自立支援センター	介護福祉士	小松哲也
(福) 乙訓福祉会	ライフサポート事業所	相談支援室長	長谷川修
乙訓福祉施設事務組合	乙訓ポニーの学校	主任	伊藤憲一
(財) 長岡記念財団	しうがい者就業・生活支援センター アイリス	センター長	内田依子
(福) 大山崎町社会福祉協議会		相談支援専門員	榎並妙子
(福) 恩賜財団済生会京都府病院	福祉相談室	福祉相談室長	内藤雅子
京都府立向日が丘支援学校		教諭	森山正博
乙訓の障害者福祉を進める連絡会			河合祥子
乙訓の障害者福祉を進める連絡会			長澤洋子
京都府山城広域振興局健康福祉部乙訓保健所	福祉室	室長	兒玉周司
向日市	健康福祉部障がい者支援課	主査	岩谷誠司
長岡京市	健康福祉部障がい福祉課	主査	井手竜太
大山崎町	健康福祉部福祉課	係長	上田崇博

専門委員

京都府特別アドバイザー	京都華頂大学現代家政学部	准教授	武田康晴
-------------	--------------	-----	------

乙訓圏域障がい者自立支援協議会事務局 乙訓福祉施設事務組合総合相談支援センター

〒617-0813 長岡京市井ノ内西ノ口17番地の8 TEL954-7939

平成25年度乙訓圏域障がい者自立支援協議会 「医療的ケア」委員会活動報告（案）

1 設置の目的、役割

「医療的ケア」委員会は、「『医療的ケア』が日常的に必要な障がい者が安心して地域で生活していくよう、居宅等での生活支援に当たり、関係機関が連携して圏域内における支援体制を構築・確保する」ことを目標に、乙訓圏域障がい者自立支援協議会の常設委員会として平成23年度から設置されました。

2 取り組みの状況

（1）定例会の開催状況

第1回 平成25年4月25日（木）乙訓保健所講堂

（議題）報告事項・・○平成24年度「医療的ケア」委員会活動報告（案）
について

○乙訓圏域内（及び周辺）事業所の現状・課題・研修ニーズに関する調査について

検討事項・・●今年度委員会の協議について

第2回 平成25年6月27日（木）大山崎町立中央公民館にて

（議題）報告事項・・○委員会の体制（人事）について

○喀痰吸引等研修プロジェクトについて

○「研修ニーズ等事業所アンケート調査」について

検討事項・・●入院時コミュニケーション支援について

●個別ケースの検討について

第3回 平成25年8月29日（木）乙訓保健所講堂にて

（議題）報告事項・・○喀痰吸引等研修の実施について

○在宅療養児支援事業について

検討事項・・●入院時コミュニケーション支援について

第4回 平成25年10月24日（木）乙訓保健所講堂にて

（議題）報告事項・・○入院時コミュニケーション支援に係る文書の取り扱いについて

○喀痰吸引等研修プロジェクトの実施状況について

検討事項・・●「研修ニーズ等事業所アンケート調査」について

●「医療的ケア」が必要な人の短期入所について

第5回 平成25年12月12日（木）乙訓保健所講堂にて

（議題）報告事項・・○入院時コミュニケーション支援に係る事業所との意見交流会について

○「研修ニーズ等事業所アンケート調査」について

検討事項・・●「医療的ケア」が必要な人の短期入所について

大山崎町飯山主幹から制度等の説明

第6回 平成26年2月27日(木) 乙訓福祉施設事務組合にて
(議題) 報告事項・・○喀痰吸引等研修について

検討事項・・●「医療的ケア」が必要な人の短期入所について
　・調査結果の報告
　・個別事例研修

第7回 平成26年3月27日(木) 乙訓福祉施設事務組合にて

(議題) 報告事項・・○3号研修の実施について(プロジェクトから)

検討事項・・●本年度のまとめと来年度の活動方針

(2) 「医療的ケア」委員会での協議概要

ア 「障害福祉サービス等事業所における喀痰吸引等の実施の現状・課題
・研修ニーズに関する調査」について

本年度はまず前年度からの継続となっていた上記の調査をアンケート形式で実施(資料1)し、その結果を整理・分析し、喀痰吸引等の実施の現状と課題、どのような研修ニーズがあるか等の把握に務めました。結果については定例会で説明させていただくと同時に、協力していただいた各事業所にお返しました。(資料2)

イ 「入院時コミュニケーション支援」について

運営委員会での課題整理によって、「医療的ケア」委員会として「入院時コミュニケーション支援」及び「『医療的ケア』が必要な人の短期入所」の課題について取り組むこととなり、まずその2点を中心に乙訓の障害者福祉を進める連絡会によって聞き取り調査を実施して頂きました。

年度の前半ではまず「入院時コミュニケーション支援」についての協議を行いました。聞き取り調査の結果を踏まえ、京都府下で既に「入院時コミュニケーション支援」を制度化している自治体の状況調査(資料3)や、個別事例の報告等も行いながら定例会で議論を重ねて来ました。最終的にそれらの議論に基づいて報告書をまとめ、「医療的ケア」委員会委員長名で2市1町の各健康福祉部長宛に提出しました。(資料4)

ウ 「『医療的ケア』が必要な人の短期入所」について

引き続き、上記の検討課題に主として年度の後半に取り組み、圏域内で短期入所を行っている事業所へ「医療的ケアが必要な人の短期入所に係る事業所調査」を行い、それを基に各事業所に赴いてのヒアリングを実施しました。第6回定例会でその調査結果(資料5)を報告し、併せて具体的な事例報告も行い、圏域内の事業所の実情や「医療的ケア」が必要な人の支援がどのようになされているのかの実情を把握し、各委員の認識が深まるよう取り組みました。また、医療との連携にかかる協議の中で、委員会として乙訓訪問看護ステーション連絡会と連携の在り方についてより具体的に話し合う機会を持ってはどうか、という意見も出されました。

エ 喀痰吸引等第3号研修の実施について

平成24年からの「介護職員等による喀痰吸引等の実施のための制度」の法制化に伴い、乙訓圏域において喀痰吸引等第3号研修（以下「第3号研修」という）を実施できるようにするために、平成25年度までに、登録研修機関の確保、喀痰吸引等研修実施プロジェクトを設置、等々の取り組みを行い、実施体制を整えてきました。平成25年度はそれらの体制をベースとして9月7日（土）～8日（日）と3月1日（土）～2日（日）の2回、基本研修を実施し、計45名が受講しました。（資料6）

今後の第3号研修実施体制について、指定事業所が単独で行うことの大変さについて理解しつつ、「自立支援協議会は研修実施の枠から外れても良いのではないか」といった意見も協議の中で出されました。また、当面第3号研修実施にあたっての煩雑な事務手続きの簡略化に取り組んでいくことも話し合われました。

オ 乙訓圏域障がい者相談支援事業所との連携協議について

「計画相談」の取り組みが進んでいく中で、「医療的ケア」が必要な人の在宅支援について、乙訓圏域障がい者相談支援事業所連絡会と協議しながら対応していくことが今年度の課題でしたが、具体的な取り組みはできませんでした。引き続き相談支援事業所との連携について取り組んでいくことになります。

カ 研修会等への委員の派遣について

京都府主催の「平成25年度京都府相談支援従事者初任者研修」の講師の派遣要請があり、10月2日にルビノ京都堀川にて行われたシンポジウム「自立支援協議会の役割と活用～医療的ケアをひとつの切り口として～」にシンポジストとして尾瀬委員が出席しました。

キ 情報収集と共有化を図ることについて

制度や各種研修の情報の共有化ということで、テーマに沿って集めた資料、知り得た情報等を各委員に配布・伝達することで必要な情報の共有化を図るようにしてきました。今後も各種調査等で知り得た情報の周知徹底を図っていきます。

ク 「医療的ケア」委員会の在り方について

本年度の第一回定例会議で、医療的ケアというのは押さえながら、「医療的ケアが必要な人」に絞った協議か、「医療的ケアが必要な人も含む障害が重い人」と対象を広く捉えた協議にしていくか、といったことが議論されました。しかしこの点についてその後具体的な協議が継続できませんでしたので、今後も引き続き協議していきます。

3 今後の課題と方針

（1）障がい福祉サービス等事業所における喀痰吸引等の実施の現状・課題・

研修ニーズに関する調査結果について

喀痰吸引等制度が実施されてほぼ一年というタイミングで関係事業所の調査を行い、一定の傾向や問題点等を整理し、喀痰吸引等の支援を必要とする方にいかにその支援を拡げていくかということや、規模の小さな事業所に対する支援の必要性などが今後の課題として話し合われました。また、この事業が今後地域の中にどのように定着していくか等を見極める意味で、少し間を置いてもう一度調査を行う必要性についても話し合われました。

(2) 「入院時コミュニケーション支援」を乙訓で制度として定着させていくために

「医療的ケア」委員会として取り組んだその結果を各市町の施策に生かしていただくよう、「報告書」という形でまとめましたが、その後2市1町の平成26年度予算において事業化される目途が立ちました。今後はこの制度が圏域内に定着するよう、利用者の声に耳を傾ける等の情報収集に努め、必要な協議を行うことになります。

(3) 「『医療的ケア』が必要な人の短期入所」について

乙訓訪問介護ステーション連絡会との話し合いを行う等、連携の具体的な形も模索しながら、その事も含め、「医療的ケア」が必要な人が安心して短期入所の利用ができるということを念頭に置き、そのためにはどんな条件整備が必要であるかを協議の中で明らかにしていくことが次年度の課題となります。

(4) 「介護職員等による喀痰吸引等研修《第3号研修》の実施」について

「医療的ケア」委員会での協議から、乙訓圏域で第3号研修が実施されるまでの経過を踏まえ、プロジェクトの位置づけ、登録研修機関における研修実施委員会との関係性の整理など、研修実施の在り方を検討することが課題となります。

【別添資料】

- 資料1 「障がい福祉サービス等事業所における喀痰吸引等の実施の現状・課題・研修ニーズに関する調査」について（お願い）
- 資料2 「障がい福祉サービス等事業所における喀痰吸引等の実施の現状・課題・研修ニーズに関する調査」について【報告】（案）
- 資料3 京都府下 障害者入院時コミュニケーション支援事業の比較
- 資料4 障害のある人の入院時の支援について（報告）
- 資料5 医療的ケアが必要な人の短期入所に係る関係事業所調査のまとめ

平成25年度乙訓圏域障がい者自立支援協議会

地域生活支援部会活動報告（案）

1 昨年度までの経過

自立支援協議会発足当初より、この部会では障害のある人々が安心して暮らせる地域社会の構築を目指して、子どもたちの放課後の暮らし、医療的ケアの必要な方々の短期入所、グループホーム・ケアホームで暮らす方々の経済や夜間の安心・安全について検討を重ね、さまざまな取り組みをしてきました。

平成24年度は①向日が丘支援学校内での放課後等デイサービスの実施にむけて、実施事業所の公募をしましたが応募がなく、公募条件についての再検討が行われました。②医療型短期入所については、医療機関での短期入所の方向を限定せず、「医療的ケアの必要な方についての短期入所」として「医療的ケア委員会」で協議することになりました。③グループホーム・ケアホーム等での暮らしについては、「特定障害者特別給付費」（家賃補助制度）が施行されたものの、利用者にとっても、実施事業所にとってもまだまだ経済的な課題は大きく、継続課題とされました。④同時に障害のある方々の地域生活の安心・安全のための取り組みを「安心・安全コールセンター」の補助事業が終了したあとも、継続的に取り組む必要がありました。

2 今年度の協議の経過

第1回 平成25年7月2日

議題 1) 25年度課題の確認及び協議の進め方について

第2回 平成25年9月5日

議題 1) 放課後等デイサービス等の実情について

第3回 平成25年10月31日

議題 1) 視察研修：宇治支援学校、（福）みんななかま※報告書添付

第4回 平成25年11月27日

議題 1) 向日が丘支援学校、今後の卒業生生徒予定数について

第5回 平成26年1月23日

議題 1) 向日が丘支援学校卒業生予定者の進路見込みについて

2) 乙訓圏域の福祉サービスの現状について

第6回 平成26年2月13日

- 議題 1) 24時間安心コールセンター研修会
2) 乙訓若竹苑・生活介護事業での今年度卒業生受入れについての報告（案）について

第7回 平成26年3月12日

- 議題 1) 向日が丘支援学校卒業生進路状況の報告
2) 乙訓若竹苑・生活介護事業での今年度卒業生受入れに関する報告（案）について

第8回 平成26年4月14日

- 議題 1) 放課後等デイサービスの再公募について
2) 今年度のまとめについて

3 部会のまとめ

(1) 放課後等デイサービス等について

部会としては、視察研修を計画し他圏域での放課後の取り組みを学んできました（別添資料1）。視察研修後の意見交換では様々な感想・意見がでましたが、乙訓圏域の状況から障がいのある子どもの放課後の過ごし方については、以下のように整理して協議をしていく必要があると考えました。

- ア 放課後の生活を豊かにする活動
- イ 放課後に集える居場所づくり
- ウ 児童の発達支援となる活動（療育）
- エ 家族への支援（レスパイト）
- オ 保護者の就労支援

放課後等デイサービスの事業内容に保護者の就労支援は含まれていないため、就労支援の課題は保護者が安心して就労を継続できるような支援を別の課題として取り組まれる必要があります。

向日が丘支援学校での放課後等デイサービスについては、国の通知により基準該当となり市町が指定をすることになったため、市町で調整することになりました。市町が公募条件を調整中のため部会での協議はありませんでした。

市町で公募条件について再検討されましたが、17時までしか利用出来ない等、向日が丘支援学校の施設利用上の制約面があり、また利用者のより身近な地域でのサービス提供が必要ではないかということで、再公募は行われない方向が示されました。

一方で今年度、長岡京市に放課後等デイサービスの事業所が新たに立ち上がり、サービス提供が始まりました。それに伴って利用の枠が広がりつつあ

ります。今後はどんな方法があれば、地域で放課後等デイサービスが広がっていくのかが課題となります。

(2) 圏域の福祉サービスの現状について

平成26年度の生活介護事業の不足が予測されるため、7月に事業所の状況についてアンケートを取りました。

その中で一部の生活介護事業所しか定員に空きがなく、本人が希望する進路が選択できない状況であることがわかり、生活介護事業の受け入れを増やすことは喫緊の課題であることが確認されました。併せて向日が丘支援学校から報告された平成25年度卒業生の進路状況で、希望する進路先を選べないという事態っていました。これは今現在の福祉の考え方方にそぐわないのではないかという意見がありました。

障がいのある本人が進路を選択できるように保障すべきではないかという意見があり報告書を作成することになりました（別添資料2）

しかし、報告書の提出にあたっては関係機関の意見調整が非常に困難になり、提出に至るまでに時間がかかってしまいました。

部会で協議する内容が具体的になればなるほど、問題解決にむけての取り組みに関するそれぞれの立場からの意見も多岐に亘りました。今年度の当部会の運営を通して、複数の行政機関が参加する圏域での自立支援協議会では、部会での提案を実行するための、調整が難しくなることが、課題としてあがつきました。

しかし、このような課題がありながらも、圏域で自立支援協議会を設置することの意義が感じられる運営をめざしていくことが必要です。これは一部会だけではなく、自立支援協議会全体の課題として運営委員会で検討される必要があると考えます。

報告書は乙訓福祉施設事務組合に提出させていただき平成25年度卒業生だけでなく、平成26年度以降の卒業生進路も視野にいれた事業検討が始まられることを聞かせていただきました。

一方、就労移行支援事業の利用者が3年間にわたってゼロであることが明らかになりました。今後就労継続支援B型の利用にはアセスメントのための就労移行支援事業の利用が必要となってくるため、圏域内での就労移行支援事業をどう考えていくかということも来年度の課題として引き継ぎます。

(3) 24時間安心コールセンターについて

山城北保健所の能塚室長を講師にお招きし、城陽市をモデルにすすめられている開設検討委員会について報告いただきました。

国のモデル事業はなくなり具体的に目指す事業は現在ありませんが、障がいのある人たちの24時間の安心、安全の暮らしについては、今後も取り組んでいく課題として考えます。

(4) グループホーム・ケアホーム等での暮らしについて

グループホーム・ケアホーム等については重点的には取り組みませんでしたが、制度の変更（ケアホームはすべてグループホームに一本化）もあり利用者の生活への影響が懸念されています。今後、状況を把握し、共有していく必要があると考えます。

【別添資料】

資料1 視察研修資料

資料2 乙訓圏域障がい者自立支援協議会地域生活支援部会における協議結果について

平成25年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 発達障がい児・者支援部会活動報告（案）

1 取り組みの経過

今年度から発達障がいに関して、より幅広く、具体的な検討をするにあたり、部会の名称を『発達障がい児・者支援部会』と変更した。24年度の活動を継続し、「子どもの発達を支援するために」のパンフレットの配布に向けた作業や、課題としていた2市1町の教育、保健、福祉分野の連携を深め、子どもの発達に関する支援の在り方を検討することになった。

2 活動内容

課題となったパンフレットの配布について、関係機関と協議・調整をした。「制度やサービス等をすべての教員に周知し、活用を促進する」パンフレットを福祉行政から各教育機関を通じ、小学校、中学校に1200部配布することができた。

発達障がい児・者の年代別の状況を明らかにするため、部会員からアンケートをとり発達障がい児・者の状況と課題をまとめた。

また、各年代において、どのような資料があるのかを知るために「本人や家族が持っている情報や記録」を部会員が出し合い、「障がい、疾病、行動等の記録がある、資料、ファイル」としてまとめた。

併せて、京都府で進められている「支援ファイルの見直し」について研修会を開催した。研修会では、京都府から見直しの経緯やポイント等の説明を受け、今後、市町の関係機関で活用についての検討や圏域での情報交換等の提案を受けた。

3 取り組みの状況

(1) 定例会の開催

第1回部会 平成25年7月22日（水）13:30～15:00 乙訓保健所 講堂

- （議題）1) 自己紹介
- 2) 部会長選出
- 3) 部会の趣旨と今後の進め方

第2回部会 平成25年9月24日（火）10:00～11:30 乙訓保健所 講堂

- （議題）1) パンフレット配布等についての確認

第3回部会 平成25年12月13日（金）14:00～15:30 乙訓保健所 講堂

(議題) 1) 障がい、疾病、行動等の記録がある資料、ファイル整理、検討

第4回部会 平成26年3月12日(水) 13:30~15:00 乙訓保健所 講堂

- (議題) 1) 支援ファイル、移行支援シートに関する研修会
2) 次年度のまとめ、意見交換

第5回部会 平成26年4月22日(火) 10:00~12:00 乙訓保健所 講堂

- (議題) 1) 今年度まとめ

4 平成25年度のまとめ

(1) パンフレットの配布

全ての小学校、中学校の教員に、福祉制度やサービスについて周知するためにパンフレットを配布した。

(2) 課題抽出

発達障がい児・者の発達を支援するため、課題の抽出を行った。それらを通して、支援システムの構築や関係機関の連携について、課題が多くあるが、2市1町で取り組まれていることを確認した。

(3) 記録や資料の整理

本人や家族が所持する障がい、疾病、行動等の記載されている記録などを明らかにした。これらの記録は情報共有のために有効であることを確認し、一覧表を作成した。

(4) 研修会

京都府は「支援ファイル」を見直し、実施する市町の状況、裁量に応じた支援ファイル・移行支援シートの活用を推進していることを研修した。支援ファイルおよび移行支援シートの活用に向けた施策や実施方法について市町毎に検討が行われることとなった。情報共有の必要性や今後の各機関との連携の必要性が共通理解できた。

(5) 次年度に向けて

これらの課題解決に向け、有効なネットワークの構築や具体的な事例への対応を各市町単位での取り組みに委ねることが有効と考えた。

次年度については、部会を休会し、2市1町の発達障がい児・者の施策や方向性が明確になり、乙訓圏域全体で取り組む課題が明らかになれば、乙訓圏域自立支援協議会の部会として再開を検討する。

【別添資料】

資料1 パンフレット「子どもの発達を支援するために」

資料2 「障がい、疾病、行動等の記録がある、資料、ファイル」

平成25年度乙訓圏域障がい者自立支援協議会

相談支援部会活動報告（案）

1 昨年度までの経緯

平成23年度に発足した「相談支援部会」は、相談者が、よりスムーズに支援を受けられるシステムの整備を重点課題として、相談窓口の対応の標準化を図るために、インテークシートを作成し、相談者が最初に相談した窓口から、スムーズに支援につなげるためのフロー図を作成しました。24年度は、この相談の流れを利用者の立場から検証するために、インタビュー調査を実施し、まとめを報告しました。また、重要課題となる相談支援専門員、相談支援事業所のスキルアップや情報収集、情報共有に対する取組についても検討、協議を重ねてきました。

2 今年度協議の経過

障害者自立支援法から障害者総合支援法へと変化をしてきた障がい者福祉施策の中で、障がい福祉サービス利用にかかるケアマネジメントが制度化され、平成24年4月から平成27年3月31日までの間に障がい福祉サービスを利用するすべての利用者に対して計画作成が必要となりました。

部会では、この期限が押し迫った「サービス等利用計画・障害児支援利用計画」の作成にあたり、計画相談についての協議を優先することを念頭において下記の課題に取組みました。

○計画相談の制度説明、理解について

当事者や家族の方々によりわかりやすく周知する方法として圏域全体に対する説明会を実施した。

○インテークシートとフロー図の検証について [別添資料1]

インタビュー調査の継続については24年度まとめの報告をもって一旦終了とし相談支援システム（フロー図）に関しては、見直し検討した。

○相談支援専門員の情報共有とスキルアップについて

事業所同士の情報共有の場を乙訓圏域障がい者相談支援事業所連絡会で持ち、出し合った情報から課題を抽出、相談支援専門員スキルアップのための研修も検討した。

(1) 部会開催と協議内容

第1回部会 平成25年7月3日(水) 10:00~12:00
乙訓保健所

- (議題)
- 1) 各委員の自己紹介
 - 2) 部会長・副部会長選出
 - 3) 24年度相談支援部会における課題協議の経過報告について
 - 4) 25年度協議課題の確認及び協議の進め方について

第2回部会 平成25年8月6日(火) 10:00~12:00
乙訓保健所

- (議題)
- 1) 計画相談の現状
 - 2) 計画相談に関わる説明会の実施に向けて
 - 3) その他

第3回部会 平成25年9月13日(金) 10:00~12:00
乙訓保健所

- (議題)
- 1) 計画相談に関わる説明会の実施に向けて
 - 2) 研修会の実施に向けて
 - 3) その他

第4回部会 平成25年12月25日(水) 13:00~15:00
乙訓保健所

特別アドバイザー派遣事業の実施により武田 康晴氏出席

- (議題)
- 1) 計画相談に関わる説明会のアンケート結果とまとめ
 - 2) 研修会の実施に向けて
 - 3) インテークシートの利用状況

第5回部会 平成26年1月30日(木) 10:00~12:00
乙訓保健所

特別アドバイザー派遣事業の実施により武田 康晴氏出席

- (議題)
- 1) 計画相談説明会について
 - 2) モニタリング説明会について
 - 3) インテークシートの活用について
 - 4) サービス管理者研修会の実施に向けて

第6回部会 平成26年3月19日（水）9：30～12：00
乙訓保健所
乙訓圏域障がい者相談支援事業所連絡会との合同検討会
参加者：
相談支援部会委員 11名
相談支援事業所連絡会 12名
その他 7名（事務局・運営委員を含む）
合計 30名

アドバイザー：武田 康晴氏（京都華頂大学 現代家政学部 准教授）
内 容： 計画相談支援・児童相談支援計画作成に必要なスキル
～「文章を書くために色々な要素が必要である」と気づくために～
(グループワーク)

第7回部会 平成26年4月3日（木）10：00～12：00
乙訓保健所
(議題) 1) 今年度まとめについて
2) 計画相談説明会について

(2) 計画相談説明会について【別添資料2・3・4】

- 実施日時
- 平成25年10月18日（金）10：00～11：30
向日市福祉会館
 - 平成25年10月25日（金）19：00～20：30
大山崎町中央公民館
 - 平成25年10月29日（火）10：00～11：30
長岡京市中央公民館

説明会終了後のアンケート結果から、当事者や家族の計画相談への期待感が大きく、相談支援専門員の相談支援の質の向上が求められていることがわかりました。

また、「サービス等利用計画」「障がい児支援利用計画」の作成にあたっては、状況や希望の聞き取り、目標の設定など、当事者やその支援者である家族に関わっていただく場面がたくさんあります。より良い計画が作成され、支援を継続するためには、当事者や家族の方に、サービス等利用計画の作成についてより詳しく知り、相談支援の仕組みを活用していただく必要があります。

まだ多くの利用者が計画作成に至っていないことから、26年度の取組みとして周知のための計画相談説明会を再び開催することが決議され、7月初旬実施に向けて、作業チームを構成、年度を跨いでの活動をすでに開始しています。

第1回作業チーム会議

平成26年3月10日（月）13：30～15：30

第2回作業チーム会議

平成26年3月20日（木）10：30～12：00

第3回作業チーム会議

平成26年4月11日（金）13：00～15：00

第4回作業チーム会議

平成26年5月12日（月）10：00～12：00

3.まとめ

次年度に向けて、以下3点について検討することを確認しました。

- ① 今年度実施した計画相談説明会の再実施に加え、計画策定済みの方を対象にモニタリングに焦点をあてた説明会を開催。
- ② 個別支援計画の充実を図るためのサービス管理責任者の現任者研修を開催。
- ③ 具体的な事例を検討し、問題解決の方法や支援のあり方を共有するための取組み。

障がいのある方が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むためには、障害福祉サービスの提供体制の確保とともに、サービスの適切な利用を支える相談支援体制の構築が不可欠です。

そのため、今後も地域の実情に応じて、ネットワーク作りや連携の強化、把握された地域の課題への対応、作成されたサービス等利用計画が本人の望む暮らしを中心に考えたものになっているかの吟味、相談支援専門員のスキルアップ研修など多岐にわたる検討・協議が必要です。

【別添資料】

資料1 相談支援システム（フロー図）

資料2 「サービス等利用計画」「障がい児支援利用計画」説明会チラシ

資料3 説明会当日配付資料

資料4 説明会アンケート集計

平成25年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 ヘルパー養成・研修プロジェクト活動報告（案）

ヘルパー養成・研修プロジェクト
社会福祉法人あらぐさ福祉会

- 1 実施期間** 平成25年10月19日～平成26年6月18日
(きりしま苑・バンビオ・スマイルケア・あらぐさ福祉会にて)
※別添実施概要のとおり
- 2 受講生** 9名（平成26年5月 修了証明書交付予定）
- 3 協力実習施設** 向日市社会福祉協議会、きりしま苑、竹の里ホーム、旭が丘俱楽部、アゼリア、大山崎社会福祉協議会、大原野の杜、晨光苑、ネットワークすてっぷ（新規）、せんしゅんかい訪問介護センター開田（新規）
- 4 プロジェクトの取り組み状況**
- 第1回 平成25年5月23日（木）10時～12時 乙訓福祉事務組合
(議題) 1) 今年度の構成メンバーとカリキュラム・運営体制について
- 第2回 平成25年10月3日（木）10時～12時 乙訓保健所
(議題) 1) 介護員初任者研修課程講座の実施について
- 第3回目 平成26年3月11日（火）10時～12時 乙訓保健所
(議題) 1) 今年度のまとめと次年度について
- 5 障害福祉サービス従事者等の現任者研修（室内講議の聴講）**
聴講参加者は今年度なし。
- 6 次年度の実施・運営について**
- 定員20名で今年度と同じ水曜日夜と土曜日1日で計画。
開講期間は10月4日（土）～
年度内で最終試験まで終了できるようにカリキュラムを組む。
受講生を増やすために、早めの申請をし、開講までの募集期間を長くとれるよう
にする。
会場は今年度と同じ場所で手配をすすめる。
講師依頼はこれからすすめる。
運営について、会場当番などスムーズにすすめるため、プロジェクト構成員の増
員をはかる。
聴講について、参加しやすくするため講義の1週間前まで申し込み可能とする。

【別添資料】

資料1 介護職員初任者研修課程講座 実施概要

資料2 ホームヘルパー養成講座の聴講要綱

平成25年度乙訓圏域障がい者自立支援協議会

『雇用支援プロジェクト』活動報告（案）

1 設置の目的、役割等（これまでの経緯）

平成19年に、乙訓圏域障がい者自立支援協議会において「障がい者就労」をテーマに就労支援部会を立ち上げ、2年間の協議を経て具体的な障がい者雇用の啓発事業を実施することが協議されました。

平成20年度は、「障害者就業・生活支援センター」立ち上げの議論が持ち上がり、平成21年4月に「しうがい者就業・生活支援センターアイリス」が設立されました。また同年に企業に対する障がい者雇用の啓発活動を目的としたフォーラム「働く幸せフォーラム in 乙訓」を実施しました。行政・教育・福祉サイドと乙訓青年会議所を中心とした企業サイドが連携・協力し合い、乙訓圏域での障がい者雇用ネットワークの礎がつくられました。

平成22年度は、フォーラムの開催をひとつの契機に、より具体的な障がい者雇用の啓発事業を行うために、就労支援部会を「雇用支援プロジェクト」として再編成しました。

「しうがい者就業・生活支援センターアイリス」が中心となって、障がい者雇用促進の仕掛けを創出するために協議を行いました。

平成23年度は、障がい者雇用促進の仕掛けを創出するための具体的な取り組みとして、障がい者雇用促進啓発機関誌「アクション」（以下、「アクション」と記載）を創刊しました。

乙訓圏域を中心とした企業に「アクション」を広く配布して、障がい者の雇用および職場実習の機会創出に繋げられるように活用しました。その結果、雇用や職場実習の受入を検討される企業が増えるなどの成果がみられています。また、乙訓圏域での障がい者雇用企業のリストを題材に圏域内での就労実態の把握を行い、次年度の検討課題の抽出に繋げています。

さらに、大阪市の特例子会社への企業視察を行い、視察で得たヒントを基に障がい者雇用促進のための具体策を検討しました。

平成24年度は、平成23年度の検討を基に新たなネットワークの具現化として、「障がい者ワーカフェア in 乙訓」を発案して準備をすすめました。そして、平成25年2月に長岡市立中央公民館にて「障がい者ワーカフェア in 乙訓」を開催し、障がい者雇用ネットワークの発展に繋がりました。平成25年度は、前年度のワーカフェアでの課題を踏まえたうえで、平成26年2月に前年度と同じ長岡市

立中央公民館にて、二回目として実施いたしました。

2 取り組みの状況

(1) 雇用支援プロジェクト定例会の開催

第1回：平成25年5月30日（木） 13:30～15:00 乙訓保健所 講堂

- (議題) 1) 平成24年度乙訓圏域障がい者自立支援協議会全体会の報告
- 2) 平成25年度雇用支援プロジェクト会議の計画・今年度の具体的な活動方針について意見交換
- 3) 山城障がい者就労サポートチーム調整会議「はちどり」のシンポジム共催について
- 4) 京都新聞社会福祉事業団のはちどり会議委員がオブザーバー参加

第2回：平成25年7月9日（火） 13:30～15:00 乙訓保健所 講堂

- (議題) 1) 今後の活動事業について検討

第3回：平成25年8月7日（火） 13:30～15:00 乙訓保健所 講堂

- (議題) 1) 障害者法定雇用率についての情報提供
- 2) 今後の活動事業について検討

第4回：平成25年9月10日（火） 13:30～15:00 乙訓保健所 講堂

- (議題) 1) 障がい者ワークフェア in 乙訓の進捗報告
(各役割の班に分かれて検討)

第5回：平成25年10月16日（水） 13:30～15:00 乙訓保健所 講堂

- (議題) 1) 障がい者ワークフェア in 乙訓について検討
企業へのブース出展打診状況を報告

第6回：平成25年11月22日（水） 13:30～15:00 乙訓保健所 講堂

- (議題) 1) 障がい者ワークフェア in 乙訓について進捗状況の報告
- 2) 今後、各役割班に分かれて動き、進捗状況を適宜事務局からメール送信することとする

第7回：平成25年1月15日（水） 13:30～15:00 乙訓保健所 講堂

- (議題) 1) 障がい者ワークフェア in 乙訓について進捗状況の報告・最終確認
- 2) 京都府障がい者マイスター認定式をワークフェアの開会挨拶の後に実施することとなる

第8回：平成26年1月28日（火） 11:00～12:00 長岡市立中央公民館

- (議題) 1) 会場での最終確認と打ち合わせ

平成26年1月31日（金） 前日準備

設営業者の設営監督・最終準備と確認

平成26年2月1日(土) 障がい者ワークフェアin乙訓 実施
長岡京市立中央公民館

第9回 3月27日(木)10:00～ 保健所 図書室

- (議題) 1) 第2回障がい者ワークフェア in 乙訓の総括
2) 平成25年度の総括

3 平成25年度の雇用支援プロジェクト会議総括

平成25年度の総括としての意見集約は、以下のとおりです。

- (1) 「障がい者ワークフェア in 乙訓」を2年継続して実施した。成果はあったが、予算の少なさが課題である。
- (2) 一般雇用・就労に向けた取り組みの創出は、今後アイリスが主となり進めていく予定。
- (3) 特別支援学校の卒業生の就労継続B型利用のアセスメントについて検討する場として取り組む予定。
- (4) 国の流れもあるが、特別支援学校の生徒一人ひとりの力・障がいのマッチングがなされているのかについて、課題がある。福祉的就労を利用している人が、現状では多い。制度的に乙訓としてどう取り組むのか、検討する。
- (5) 乙訓圏域の課題を、関係機関とともに考えていける場とする。
- (6) 現状として、乙訓地域は生活介護の割合が大きい。一般就労がゴールではなく、そこに辿り着くまで、また辿り着かなくても、そのプロセスを検討できる場になれば良い。

4 平成26年度に向けて

これまでの「企業就労」を大きなテーマとした、雇用支援プロジェクトとしての取り組みは一旦区切りをつけて、今後は、しうがい者就業・生活支援センターアイリスの本来業務に委ねることとしました。

また、特別支援学校の卒業生の就労継続支援B型利用のアセスメント等の課題については、圏域全体の課題として申し送ることとなりました。

【別添資料】

資料1 「障がい者ワークフェア in 乙訓」のチラシ

平成25年度乙訓圏域障がい者自立支援協議会

「嗜痰吸引等研修プロジェクト」活動報告(案)

1、研修に至る経過

- (1) 平成19年度・20年度 その中で「地域生活支援部会」として
・「医療的ケア」とは…共通認識を図る
・各機関（学校・通所・生活支援等）や在宅での実態等報告
・「医療的ケア」を必要とする人及び家族へのアンケート・聞き取り調査（回答31件）
- (2) 平成21年度・22年度 「医療的ケア」部会として
・「医療的ケア研修会」の企画・開催
・個別ケース検討を通した課題協議
・訪問看護にかかる課題協議（福祉医療適用等）
- (3) 平成23年度
・「医療的ケア委員会」として整理され、常設される。
・乙訓圏域にも登録機関の確保を。
- (4) 平成24年度 研修法制化の流れに伴い、
・重度訪問介護従業者養成研修登録機関であった乙訓福祉会が「乙訓福祉会・ライフルパート事業所」として登録機関となるべく実施に向けての取り組みにかかることにより、プロジェクト構成員として連携・調整を図り研修実施に向けて活動していく。

9月：京都府の指定登録機関となり、乙訓圏域内での登録機関となる。研修実施。

第一回基本研修 10月 6. 7日（土・日） 受講者数 27名

第二回基本研修 2月 23. 24日（土・日） 受講者数 49名

場所：乙訓総合庁舎（全2回終了）

総受講者数 76名

平成24年度研修委員会構成（プロジェクト）委員

所属	氏名	備考
乙訓医師会（医ケア委員長）	高畠龍一	
乙訓医師会	小原尚之	
乙訓障害者支援事業所連絡協議会（医ケア副委員長）	尾瀬順次	
乙訓訪問看護ステーション連絡会	植野佳子	
乙訓圏域障害者相談支援事業所連絡会	吉川昭子	
（乙訓保健所）福祉室（行政）	兒玉周司	オブザーバー
（乙訓保健所）福祉室（行政）	野々口義也	オブザーバー
乙訓福祉会（登録機関）	坂本忍	
乙訓福祉会（登録機関）	三宅州人	
乙訓福祉会（登録機関）	久保田美香	
乙訓圏域障害者自立支援協議会（乙訓福祉会）	西山淑子	
乙訓圏域障害者自立支援協議会事務局 GM	尾藤省一	

受講者・所属事業所所在地情報 3 7 事業所

内訳

* 京都市 23

(南区 7・西京区 5・伏見区 4・山科区 1・北区 1・右京区 1・上京区 2・左京区 1・東山区 1)

* 宇治市 1 * 京田辺市 2 * 城陽市 1 * 南丹市 1 * 長岡京市 8 * 向日市 1

受講者医療行為の内容

喀痰吸引 160 経鼻経管栄養 16 胃瘻・腸瘻 47 (複数回答)

2、平成 25 年度「喀痰吸引等研修（第 3 号研修）」取組状況

平成 25 年度

第一回基本研修 9月 7・8日（土・日）受講者数 31名

第二回基本研修 3月 1・2日（土・日）受講者数 14名

場所：乙訓福祉会（全 2 回終了）

総受講者数 45 名

受講者・所属事業所所在地情報 20 事業所

内訳

* 京都市 8 (南区 1・西京区 5・中京区 1・下京区 1)

* 長岡京市 7 * 向日市 2 * 滋賀県大津市 2 * 京田辺市 1

受講者医療行為の内容

喀痰吸引 51 経管栄養 35

(24 年度 総受講者数 76 名) + (25 年度 総受講者数 45 名) = 121 名受講。

平成 25 年度研修委員会構成（プロジェクト）委員

所属	氏名	備考
乙訓医師会（医ヶ委員長）	高畠龍一	
乙訓障害者支援事業所連絡協議会	尾瀬順次	
乙訓訪問看護ステーション連絡会	金森千絵子	
乙訓圏域障がい者相談支援事業所連絡会	奥田英太郎	
乙訓圏域障がい者自立支援協議会事務局 GM	長藤 登	
乙訓圏域障がい者自立支援協議会（医ヶ副委員長）	山本忠明	
乙訓圏域障がい者自立支援協議会	西山淑子	
大山崎町健康福祉部福祉課（行政）	飯山一隆	
（乙訓保健所）福祉室（行政）	野々口義也	オブザーバー
乙訓福祉会・ライフサポート事業所（登録機関）	小原一郎	

3、平成 26 年度喀痰吸引等研修予定

10 月に 1 回の予定

平成25年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

精神障がい者地域生活支援プロジェクト活動報告（案）

1 設置の目的と経過

京都府の事業であった精神障害者退院促進事業が、平成24年の法制度の改正により地域移行支援・地域定着支援事業に移行しました。移行にともない、退院促進について協議する場を継続するために、平成24年に保健所主催の乙訓圏域地域移行・地域定着支援事業連絡協議会が設置されましたが、精神障がい者の地域移行と地域生活を乙訓圏域の課題として協議するために、平成25年度に自立支援協議会のプロジェクトとして取り組むことになりました。

2 取組みの経過

第1回 7月25日（木）10時～12時 保健所

- (議題) 1) 今年の構成員
- 2) 課題提起

第2回 8月30日（金）10時～11時30分 保健所

- (議題) 1) パンフレットの活用について検討（別添資料1）
- 2) 地域移行・地域定着事業の啓発について検討

第3回 9月20日（金）10時～11時 保健所

- (議題) 1) 事業説明会について検討
- 2) パンフレットの活用について検討

第4回 10月25日（金）10時～11時

- (議題) 1) 事業説明会について検討
- 2) パンフレットの活用について検討

第5回 11月29日（金）10時～11時

- (議題) 1) 事業説明会について検討
- 2) パンフレットの活用について検討

第6回 1月17日（金）10時～11時

- (議題) 1) 事業説明会について検討と最終確認
- 2) パンフレット配布について報告

第7回 2月5日（水）15時～16時 西山病院

- (議題) 1) 事業説明会の実施
「地域移行・地域定着支援事業について知ろう」

内容：①事業概要の説明 講師 中田氏（乙訓保健所）
②事例発表 発表者 大澤氏（アンサンブル）
③質疑応答

参加者：西山病院職員 36名
プロジェクト委員 12名

第8回 3月14日（金）10時～11時

- （議題） 1) 事業説明会のふりかえり
2) 今年度のまとめと次年度の課題

3 25年度のまとめと課題

平成25年度は、精神障がい者の地域移行をすすめるため、地域移行・地域定着支援事業の啓発を目的に以下の取り組みをおこないました。

（1）パンフレット設置の依頼と配布

医療機関（病院2ヶ所、クリニック・医院3か所）、保健所、2市1町の障がい福祉担当課・生活保護担当課、指定一般相談支援事業所に設置していました。

（2）西山病院職員を対象とした事業説明会の実施（別添資料2）

看護職、作業療法士、精神保健福祉士、調理師、事務職員など幅広い職種が参加され、関心の高さが伺えました。説明会後のアンケートでは、事例を含めた内容で理解しやすかったとの意見がありました。一方で、地域移行・地域定着事業や地域サービス事業等に対する認知度が低いとの意見がありました。

地域移行をすすめるためには、地域移行・地域定着事業の啓発を継続するとともに、関係機関と連携して受け入れる地域実情や課題を具体的に把握し、共有する必要があることを確認しました。

次年度も、精神障がい者が希望する生活を実現するために、地域移行と地域定着をすすめていく必要があります。また、関係機関の連携を強化し、精神障がい者の地域生活の実態や課題を共有するために協議を重ねていきたいと思います。

【別添資料】

資料1 パンフレット「地域移行・地域定着支援事業のお知らせ」

資料2 説明会資料「精神障害者地域移行・地域定着支援事業について」